

## 検査報告書裏面に 『検査内容の説明』記載のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、弊社では、裏面に「検査内容の説明」を記載した検査報告書にて検査のご報告をさせていただくことになりましたので、取り急ぎご案内する次第です。

何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

### 『検査内容の説明』

検査報告書裏面に

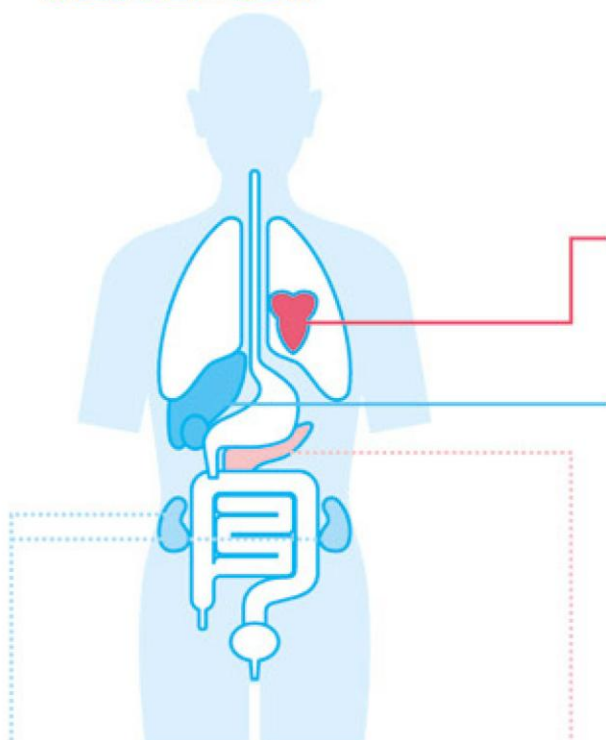
「全身」「心臓」「肝臓・胆管」「膵臓」「血糖関連」「電解質」「脂質」「腎臓」「貧血」「炎症」「その他」における『検査内容の説明』を記載いたしました。

※ 裏面をご参照ください。

### 開始日

平成 25 年 10 月ご報告分以降より随時とさせていただきます。

## 検査内容の説明



検査項目	検査内容の説明	
全身	総蛋白	血清中の蛋白は大きくアルブミンとグロブリンに分かれ、蛋白分画はさらにグロブリンを4つに分けて、各分画の比を測定します。全身の健康状態や肝・腎機能の病状を知ることができます。
	アルブミン	
	蛋白分画	

心臓	CK(CPK)	心筋や骨格筋が崩壊した時に上昇し、心筋梗塞などの診断に用いられます。
	BNP	慢性心不全や急性心疾患の診断・予後の推定に用いられます。

肝臓・胆管	AST(GOT)	肝炎・肝硬変や心筋梗塞など細胞が崩壊する疾患で上昇するため、病状・治療効果の診断に用いられます。
	ALT(GPT)	
	LD(LDH)	肝臓、心臓など各種臓器や血液疾患の診断に用いられます。
	ALP	肝臓、骨、膵、腎臓を由来とする酵素で、肝胆道の疾患、骨折や骨の成長期などで高くなります。
	γ-GT	肝・腎などに多く含まれる酵素で、アルコールや薬剤性肝障害などで上昇することがあります。
	総ビリルビン 直接ビリルビン	赤血球ヘモグロビンの分解産物で、肝疾患、黄疸、溶血性貧血などで高くなります。
コリンエステラーゼ	肝臓で産生される酵素で、肝機能低下時や有機リン剤による中毒で低下することがあります。	

膵臓	血清アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される酵素で、急性膵炎や耳下腺炎などの際に検査されています。
----	---------	--

血糖関連	血糖	血中のブドウ糖を測定し、糖尿病の診断に用います。
	尿糖	血糖が一定の異常高値を超えると、腎臓から尿に排泄され、尿糖が陽性になります。
	HbA1c	1~2ヶ月前の血糖を反映するといわれ、糖尿病の診断に用いられます。

電解質	Na Cl	NaとClは細胞外に多く存在し、水分やミネラルの調整に重要です。
	K	Kは細胞内に多く存在し、細胞機能の維持に欠かせない重要な電解質です。
	Ca	骨や歯に多量に存在するほか、筋収縮、血液凝固にも必要な物質です。

脂質	総コレステロール	総コレステロールは全量を測定します。LDL-Cは低比重リポ蛋白中に存在し、血管壁に滞り動脈硬化や心筋梗塞の危険因子とされており、メタリックシンドロームの診断基準となっています。高比重リポ蛋白中に存在するHDL-CはLDL-Cを取り除くことから、一般に「善玉コレステロール」と呼ばれ、LDL-Cは「悪玉コレステロール」といわれています。
	HDLコレステロール	
	LDLコレステロール	
	中性脂肪	脂質代謝異常の診断に用いられます。食後は高くなりますので、空腹時に検査します。

※検査結果は食事や運動等の影響により変動する事があります。

検査項目	検査内容の説明	
腎臓	尿素窒素 クレアチニン	腎臓からの排泄物で腎機能が低下すると、血中の値が高くなります。
	eGFRcreat	血清クレアチニン値と性別・年齢から、腎臓の働き(糸球体ろ過量)を推算した値です。
	尿酸	高尿酸血症を放置すると、痛風を起こすことがあります。
	尿蛋白	腎機能低下や膀胱炎などの際に陽性になります。細胞など有形成分を顕微鏡で観察するのが尿沈渣で、より詳細な病状を検査します。
	尿沈渣	

貧血	血清鉄	鉄は赤血球ヘモグロビンの重要な成分で、鉄欠乏性貧血の診断・治療に用いられます。
	総鉄結合能	
	不飽和鉄結合能	

炎症	CRP	感染症や炎症性疾患などで高くなります。
----	-----	---------------------

その他	RF(定量)	リウマチの検査に用いられます。
	ASO	溶連菌感染の診断に用いられます。
	便中ヒトヘモグロビン	大腸など消化管からの出血をスクリーニングする潜血検査です。
	白血球数	感染症や炎症性疾患などで高くなります。
	赤血球数 ヘモグロビン ヘマトクリット	貧血などの血液疾患を診断し治療効果をみるために、これらの検査項目は一括測定されています。
	網状赤血球数	赤血球産生が上昇すると増加するので、貧血などの診断治療に用いられます。
	血小板数	止血の働きをする血球成分です。産生の低下や病気による消費の亢進で減少することがあります。